令和2年度

事業報告書

社会福祉法人 輪島市社会福祉協議会

目　次

1．総務課
①法人運営事業 …… 1
②包括支援センター職員派遣 …… 3

2．地域福祉課
①ボランティアセンター事業 …… 4
②ジュニアボランティア事業 …… 7
③福祉サービス利用支援事業 …… 8
④生活・介護支援サポーター養成事業 …… 9
⑤高齢者スポーツ事業 …… 10
⑥共同募金配分事業 …… 10
⑦ふれあいプラザ二勢（指定管理）
介護予防アクティビティ教室 …… 11
ふれあいプラザ二勢管理運営事業 …… 12
シルバーハウジング生活援助員派遣事業 …… 14
筋力向上トレーニング事業 …… 15
⑧社会福祉法人連携による「地域における公益的な取組」 …… 16
⑨当事者団体等の支援 …… 16
⑩生活支援体制整備事業 …… 17

3．介護福祉課
①有償運送事業 …… 19
②電話訪問事業 …… 19
③障害福祉サービス事業 …… 20
④訪問介護事業 …… 21
⑤居宅介護支援事業 …… 23

4．児童福祉課
①輪島市もんぜん児童館 …… 24
②放課後児童健全育成事業（児童クラブ） …… 26
③子育て支援、食育、学習支援事業等 …… 28

5．くらしサポートセンターわじま
①生活困窮者自立相談支援事業 …… 29
②生活福祉資金貸付事業 …… 30
③北山たすけあい資金貸付事業 …… 30
④生活困窮者福祉資金貸付事業 …… 31
⑤職業紹介事業 …… 31
⑥就労準備支援事業 …… 32
⑦家計改善支援事業 …… 32
⑧心配ごと相談事業 …… 33

6．災害ボランティアセンター
①災害ボランティアセンター運営連絡会 …… 34

その他の各種福祉推進事業
1．出前福祉講座 …… 35
2．職員の研修状況 …… 36

事業実施報告

１．総務課

①法人運営事業

年間目標
社会福祉法に基づき、経営組織のガバナンス・事業運営の透明性・財務規律の強化を図り、安定した法人運営を行う

実　　績

法人経営基盤の強化・充実

（１）会務の運営

①理事会

開催日	議題
2.6.10	1.令和元年度事業報告の承認について 2.令和元年度計算書類及び財産目録の承認について 3.放課後児童クラブの利用に係る保護者負担額の特例に関する規約の制定について 4.令和２年度資金収支予算第１次補正(案)について 5.ふれあいプラザ二勢指定管理者への応募について 6.定時評議員会の招集について
2.12.9	1.令和２年度資金収支予算第２次補正(案)について 2.令和３年度輪島市社会福祉協議会採用職員第２次募集について 3.評議員会の招集について
3.3.18	1.令和２年度資金収支予算第３次補正(案)について 2.介護職員等の処遇改善に関する規程の一部改正について 3.臨時職員・嘱託職員及びパートタイマーの就業規則の一部改正について 4.令和３年度事業計画(案)について 5.令和３年度資金収支予算(案)について 6.評議員選任・解任委員会委員の選任について 7.評議員会の招集について
3.3.26 (決議の省略)	1.理事候補者について 2.施設長等の選任にいつて 3.評議員会における決議の省略について
3.3.30 (決議の省略)	1.常務理事の選定について

②評議員会

開催日	議題
2.6.26	1.令和元年度事業報告の承認について 2.令和元年度計算書類及び財産目録の承認について 3.令和２年度資金収支予算第１次補正(案)について
2.12.21	1.令和２年度資金収支予算第２次補正(案)について
3.3.29	1.令和２年度資金収支予算第３次補正(案)について 2.令和３年度事業計画(案)について 3.令和３年度資金収支予算(案)について
3.3.29 (決議の省略)	1.理事の選任について

③監事会

年月日	議題
2.5.29	令和元年度実施事業及び各会計の監査

（２）指導監査等の実施

年月日	内容
2.11.5	石川県福祉サービス運営適正化委員会苦情解決体制等の巡回指導
3.1.27	輪島市監査委員による財政援助団体等監査

（３）自主財源の確保

①社協会員制度の理解と加入促進（一般・特別・賛助会費）（件数・実績額）

	H29 年度	H30 年度	R1 年度	R2 年度
一般会費	9,196 件	9,017 件	8,638 件	8,622 件
（世帯）	1,842,100 円	1,803,500 円	1,727,600 円	1,724,400 円
特別会費	49 件	49 件	49 件	46 件
（企業・団体）	396,000 円	401,000 円	406,000 円	396,000 円
賛助会費	147 件	144 件	140 件	149 件
（個人）	183,700 円	178,700 円	164,700 円	182,700 円
合計金額	2,421,800 円	2,383,200 円	2,298,300 円	2,303,100 円

※実績額の10％を地区社会福祉協議会へ還元

②寄附金の状況

	H29 年度	H30 年度	R1 年度	R2 年度
件数	28 件	20 件	17 件	12 件
金額	691,279 円	555,115 円	4,453,757 円	402,464 円

③自動販売機手数料の状況（本所及びふれあいプラザ二勢）

令和２年度中収入済額

設置場所	販売手数料額
本所	46,183 円
ふれあいプラザ二勢	1,895 円
合計	48,078 円

福祉の啓発

・輪島市社会福祉大会の開催

①開催日：令和２年８月６日

②会　場：輪島市文化会館

③内　容：式典　社協会長表彰　個人３９名、４団体

※ 今年度はコロナ感染拡大防止のため表彰式のみ

広報活動

・地域福祉の推進、福祉の啓発を図ることを目的とし、下記のとおり市民へ情報を提供した

①越後屋版社協だよりの発行　年９回発行（６月・１０月・２月を除く）

②社協だよりの発行　年３回発行（６月・１０月・２月）

③ホームページやフェイスブックでの情報発信　随時（新着情報の提供９回）

職場の環境づくり

・いしかわ男女共同参画推進宣言企業に認定(石川県)

性別を問わず職員皆が働きやすい職場の環境づくりの推進に努めた

②地域包括支援センター職員派遣

年間目標
輪島市地域包括支援センターに職員を１名派遣し、地域住民の心身の健康の維持、生活の安定、保健・ 福祉・医療の向上に寄与する
実　　績
・輪島市地域包括支援センターに職員を１名派遣した。 ・上記年間目標の達成以外にも、行政業務の執行に携わることにより職員の資質向上が図られたほか、社会福祉協議会の本来事務である地域福祉に関し多くの知見を深めることができた。

２．地域福祉課

①ボランティアセンター事業

年間目標
(1) 輪島市ボランティア連絡協議会の運営支援、会議の開催（役員会１回、総会１回） (2) 暑中見舞いボランティアの実施（77 才以上 1,000 枚作成目標） (3) ボランティア全国フォーラム参加者への助成 (4) ボランティアフェスティバル輪島の開催 (5) 能登北部地域ボランティアとの連携、交流研修会の開催 (6) ボランティア活動保険への加入促進（1,100 名） (7) ボランティアセンターの周知広報（社協だより３回、新聞ﾁﾗｼ９回、ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ等の更新） (8) ボランティアグループの実態把握・名簿管理 (9) サロン活動、配食サービスへの助成（サロン１カ所・配食サービス８地区） (10)航空大学校内ボランティアセンター設置と活動支援（ボランティア紹介、相談） (11)ボランティア協力校、児童の福祉体験学習への支援
実　　績
(1) 輪島市ボランティア連絡協議会への運営支援、会議の開催（理事会４回、総会書面表決）

と　き	会議名	内　容
6 月 23 日（火）	第１回理事会	前年度事業報告、新年度事業計画について 理事任期満了に係る改選について
7 月　1 日（水）	総会（書面表決）	同上
7 月 20 日（月）	第２回理事会	総会報告、新役員選出 ボランティアフェスティバル輪島について
9 月　2 日（水）	第３回理事会	ボランティアフェスティバル輪島について
11 月 30 日（月）	第４回理事会	来年度の計画について ・ボランティアフェスティバル輪島、研修等

※場所：輪島市文化会館２階ボランティアルーム

(2) 暑中見舞いボランティアの実施（実施期間：令和２年５月～6 月）

参加ボランティア人数：117 名　ボランティア対応回数：33 回

ハガキ手渡し場所：本所、門前支所、ふれあいプラザ二勢

内容　：　ボランティアを募集しハガキを作成する機会を提供した。
市内 77 才以上の独居高齢者へ体調を気づかう暑中見舞いを 950 枚送付した。
令和２年度は社協だよりを見て来所したり民生委員の紹介でボランティアが集まった。作業は各自宅やグループで作成する場合は少人数で行うことを勧めた。

(3) ボランティア全国フォーラム参加者への助成

新型コロナウィルス感染拡大の為、全国ボランティアフォーラムは開催されなかった。
輪島市ボランティア連絡協議会としての組織の今後の方向性（ボランティアグループ活動の把握、研修の充実、市民への周知等）を協議する機会を例年より多く持った。

(4) ボランティアフェスティバル輪島の開催

とき ： 令和2年10月17日　場所 ： ﾋﾞｭｰ･ｻﾝｾｯﾄ ｺﾝﾍﾞﾝｼｮﾝﾎｰﾙ夕陽　参加者 ： 30名

内容 ： ①講演:障害を理解する～知的障害、発達障害疑似体験～（啓発隊ピースのたね）

②グループワーク：これまでの活動の振り返り、今後の活動について。

新型コロナウィルス感染拡大防止の為ボランティアグループリーダーを対象とした研修を中心に開催した。自身の生きがい・介護予防を目的に活動している人が多い中、地域に求められている活動を模索している人もいた。今後、地域共生社会の実現にボランティアがどのような場面で貢献できるか研修しながら考えていくことを確認した。

(5) 能登北部地域ボランティアとの連携、交流研修会の開催

令和 2 年度は輪島市ボランティアセンターが能登北部 2 市 2 町の事務局となり能登北部の各市町のボランティアセンターの連携を深めるための会議を3回開催した。

新型コロナウィルス感染拡大防止の為、市町を越えての研修会を中止しこれまでの連絡会の歴史と各市町のボランティアグループの活動をまとめた冊子『能登北部のボランティア活動～奥能登人の思いやり』を作成した。(300部)

(6) ボランティア活動保険への加入促進

保険加入982件（令和元年度1,077件）行事保険加入30件（令和元年度53件）

令和2年度初めに社協だよりやボランティア連絡協議会を通じ保険加入を勧めた。

新型コロナウィルス感染拡大で活動を自粛する人がいた為、加入数が減少した。

(7) ボランティアセンターの周知広報

社協だより3回（6、10、2月）越後屋チラシ9回（4、5、7、8、9、11、12、1、3月）

社協ホームページ、フェイスブックを随時更新し、ボランティア行事案内や活動状況、ボランティア募集情報を掲載した。

(8) ボランティアグループの実態把握、名簿管理

73団体（令和2年度は新規加入1、解散3）　1,484人（令和元年度1,325人）

ボランティア活動保険加入時に会員名簿の作成を促しグループ内の会員構成、活動状況を把握し名簿を作成した。

名簿を基に輪島市ボランティア連絡協議会加入グループ活動冊子を200部作成した。

協議会加入グループの他、ボランティア活動相談等の問い合わせ時に市民に配布した。

(9) サロン活動、配食サービスへの助成

①サロン助成 ： ぽっかぽかサロン（門前町）　実施回数：10回／年　参加：延べ242人

内容：健康づくり、介護予防、人との交流を目的とした体操やﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ

②配食サービス ： 門前地区（8地区）実施回数：36回／年　配食対象者：延べ2,881人

新型コロナウィルス感染拡大の為、中止した月もあるが感染に注意し実施した。

(10) 航空大学校内ボランティアセンター設置と活動支援

新型コロナウィルス感染拡大の為、部外者の校内への出入りが年間を通して禁止されたので広報誌を送付したり、随時担当教諭と連絡を取り情報交換した。

(11) ボランティア協力校、児童の福祉体験学習への支援

①ボランティア協力校（令和2～4年度指定校大屋小学校）

とき ： 令和2年10月7日　　内容：視覚障害のある人を理解する（点字体験）

対象 ： 小学3年生12人　　講師：点字指導ボランティア2人　社協職員2人

②福祉体験学習支援（鵠巣小学校）

とき ： 令和2年12月10日　　内容：高齢者を理解して支える（車いす体験）

対象 ： 小学3、4年生6人　　講師：あての木園職員1人　社協職員2人

※輪島市ボランティアセンター業務について

①市内ボランティアコーディネート　相談15件

内訳 ： ボランティアを求める　5件

ボランティアをしたい　1件

活動に関する相談支援　9件（内活動機器備品助成（県社協事業）支援4件）

②ボランティア講座の開催

地域マスクづくり講習会

とき ： 令和2年7月2日　　場所：奥能登WORKSスタジオ　　参加：10人

講師 ： 地域のボランティア2人派遣

内容 ： ボランティアが地域でマスクづくりの講師として活動するにあたり依頼を受ける場面から講座実施までの流れを支援した。

③ボランティアルームの管理

申請受付、文化会館との連絡調整を行った。随時、部屋の掃除、整理整頓を行った。

令和2年度はボランティア12グループで108回の利用があった。

②ジュニアボランティア事業

年間目標
ジュニアボランティア講座として以下の講座を開催する (1) 子ども認知症サポーター養成講座の実施　児童も地域住民として認知症について学び高齢者の見守り活動に協力する　　年１回 (2) 手話講座の開催　手話をきっかけに障害者を理解し地域共生社会について考える　年１回
実　　績

ジュニアボランティア講座

と　き	場　所	内　容	講師	参加人数
8 月 12 日	もんぜん児童館	高齢者を理解して支える ～認知症について学ぶ～	社会福祉協議会職員	20
12 月 20 日		障害のある人を理解する ～楽しく手話を学ぼう～	山元美紀氏 手話通訳士 要約筆記ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ	22

児童は様々な立場の人が地域で助け合って共に暮らす大切さを学んだ。

その人のおかれた状況を理解し、ちょっとした支援をすることで共に住み慣れた地域で暮らせるということを障害のある当事者から話を聴いて理解することができた。

③福祉サービス利用支援事業

年間目標
(1) 利用者数の増加を図る。（市民への周知、関係機関との連携、支援体制の強化を図る） (2) 専門員・支援員研修への参加 (3) しせつの窓口で市民の相談を受ける

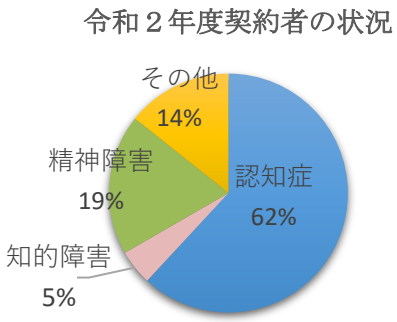
実　　績

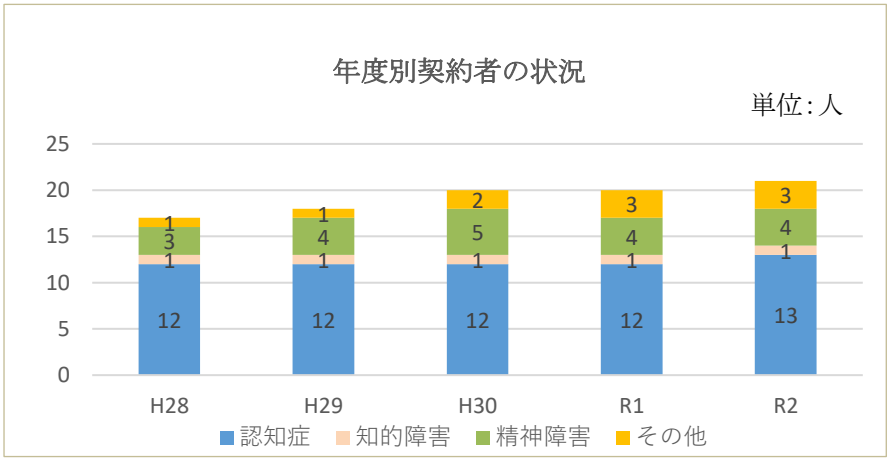
(1) 利用者数（契約件数）の増加を図る。

【 年度別対象者別契約人数 】　　（単位：人）

	認知症	知的障害	精神障害	その他	合計
H28	12	1	3	1	17(8)
H29	12	1	4	1	18(4)
H30	12	1	5	2	20(5)
R1	12	1	4	3	20(1)
R2	13	1	4	3	21(4)

※ その他：脳血管疾患後遺症による高次脳機能障害等
※（ ）は新規契約者





① 市民への周知

・ 出前講座の実施　　3 回／年

とき：令和 3 年 2 月 10 日　場所：ふれあい健康センター　対象：ボランティア 5 名

とき：令和 3 年 2 月 16 日　場所：百寿苑　　対象：ケアマネジャー等職員 8 名

とき：令和 3 年 2 月 17 日　場所：輪島診療所　　対象：医師、ケアマネジャー 7 名

・ 広報誌掲載　　社協だより 3 回、越後屋 1 回

② 関係機関との連携、支援体制の強化について

困難ケースについては関係機関（行政、くらしサポートセンター、医療機関、ケアマネジャー）に随時相談し連携しながら対応した。

サービス調整会議開催　10 回／年　　関係機関からのケース紹介 8 件（内 5 件契約）

(2) 専門員・支援員の研修

とき ： 令和２年７月 13 日（月） 場所 ： 県社会福祉会館 参加 ： 専門員１名

内容 ： 日常生活自立支援事業における不正防止について。その他事務連絡、情報交換

(3) しせつの窓口（ファミイ）で市民の相談を受ける。 ２回／年

とき ： 令和２年８月 13 日 ８月 20 日

※ 生活支援員について

① 登録数 令和２年度 11 名（目標 12 名）

何人かの生活支援員が利用者を複数担当しているのでしばらくはこの人数で対応可能であると思われる。

② 生活支援員と専門員、関係機関との連携について

生活支援員の訪問後の援助実施記録を専門員がﾁｪｯｸし対象者の状況把握に努めた。

状況がよくわからない時は専門員がすぐ訪問し確認した。必要時、関係機関へ報告し適切にサービス提供できるよう努めた。

特に体調不良等の記載がある場合、早急に受診等の対応ができるよう親族や担当ケアマネジャーに連絡した。利用者が生活保護受給者の場合は市の担当者に情報提供しその後連携し対応した。

④生活・介護支援サポーター養成事業

年間目標
(1) 介護予防の知識、実践力を身につけた人材を育成するための講座（6 回講座）を開催する (2) 養成講座修了者に対する活動支援として学習会、茶話会を実施しボランティア情報の提供とサポーター同士の交流を支援する（毎月１回）
実 績

(1) 講座内容（全６回）

第１回 令和３年１月 15 日 輪島市の高齢者の状況、高齢者サービス

第２回 令和３年１月 22 日 高齢者のからだと心、病気。高齢者支援時の注意

第３回 令和３年２月 ５日 傾聴について。介護予防に大切な運動と生活のしかた

第４回 令和３年２月 12 日 輪島市内の高齢者宅で実習

第５回 令和３年２月 19 日 地域で、家で暮らし続けるために必要な地域資源について

第６回 令和３年２月 26 日 認知症サポーター養成講座、レクリエーションの指導方法

※生活介護支援サポーター養成講座養成人数（H27～R２年度）

年度	H27 年度	H28 年度	H29 度	H30 年度	R 元年度	R2 年度
参加人数	17 人	20 人	26 人	18 人	18 人	16 人

(2) 養成講座修了後の活動支援として

① わじまサポートクラブ 21 茶話会　年 4 回実施（4、9、11、1 月）延べ参加人数 18 人

② 茶話会だより　年 4 回発行（7、10、1、3 月）

新型コロナウィルス感染拡大の為茶話会開催を減らした。その代わりとして講座修了生に茶話会だよりを発行し情報提供をした。以前から仕事があり茶話会に参加できない人もいると聴いていたので茶話会に参加できない修了生とつながる手段として効果があった。たよりを読んで問い合わせや感想等連絡をくれた人もいた。

⑤高齢者スポーツ交流事業

年間目標
(1) 高齢者スポーツ交流の実施（のと里山空港杯高齢者スポーツ大会）　年 2 回 (2) 高齢者と障害者のさわやか運動会の実施
実　　績
(1) 高齢者スポーツ交流の実施（のと里山空港杯高齢者スポーツ大会） 主催者である石川県が事業中止を決定した為、令和 2 年度は実施できなかった。 (2) 高齢者と障がい者のさわやか運動会の実施 7 月 17 日に関係者会議を開催し中止を決定した。代替案として老人クラブ会員から健康づくりや介護予防の取り組みを募のり広報わじま 11 月号誌上に市民に周知した。

⑥共同募金配分金事業

年間目標
共同募金の配分金により実施する輪島市社協事業について (1) 輪島市社会福祉大会事業 (2) 広報誌発行事業　　（社協だより年 3 回発行） (3) 暑中見舞いのボランティア事業 (4) ボランティアフェスティバル事業 (5) わ・もっそ　こどものレストラン
実　　績
(1) 輪島市社会福祉大会の開催 とき：令和 2 年 8 月 6 日　　場所：輪島市文化会館 3 階ホール 内容：表彰式のみ実施 (2) 広報誌発行事業 社協だよりの発行　（広報事業に記載） (3) 暑中見舞いのボランティア事業（ボランティアセンター事業に記載）

(4) ボランティアフェスティバル輪島の開催（ボランティアセンター事業に記載）

(5) わ・もっそ　こどものレストラン（児童福祉課実施事業で報告）

① 実施について

ふれあい健康センター、もんぜん児童館、社会福祉協議会等で昼食会、学習会を実施。新型コロナウィルス感染拡大の為、弁当配布のみになることもあった。年 31 回実施。

② 募金活動について

1～3 月募金活動を行い令和 3 年度の活動費として 276,019 円を集めることができた。（令和元年度は 183,235 円）

⑦ふれあいプラザ二勢事業（指定管理）

介護予防アクティビティ教室（介護予防教室）

年間目標
(1) 運動器の機能向上プログラム（機器なし）の実施 (2) アクティビティケア（趣味活動）の実施 (3) その他介護予防プログラムの実施（口腔ケア、レクリエーション、脳トレ、フットケア等） (4) 買い物等の生活支援の実施
実　　績
介護予防アクティビティ教室（利用者 1 名につき月 2 回実施） 実施回数：112 回／年　　利用人数：延べ 880 名（実人数 48 名） 内容（プログラム）について (1) 運動器の機能向上プログラム（機器なし）　　実施回数：112 回／年 下肢筋力向上体操、テレビ体操、 (2) アクティビティケアについて　　実施回数：112 回／年 壁面展示作品、塗り絵、折り紙（生活の中で使う紙製品等）の作成 (3) その他介護予防プログラムについて ① 口腔ケア・嚥下体操実施回数　112 回／年（毎回実施） ② レクリエーション　12 回／年（利用者 1 人につき月 1 回実施） ③ 脳トレ（計算ドリル等）　12 回／年（利用者 1 人につき月 1 回実施） ④ セルフで行うフットケア　12 回／年（利用者 1 人につき月 1 回実施） ⑤ 調理実習　45 回／年（感染拡大状況を見ながら実施） (4) 買い物等生活支援について 市内商店と連携し利用者の買い物を支援した。（とくし丸、魚、豆腐、食品等の移動販売）教室利用者から利用日に買い物ができ便利だと喜ばれた。 買い物以外の生活支援として冬期の大雪等天候が悪い時に各利用者宅に電話で安否確認をした。教室利用時だけでなく自宅での生活状況の把握や不安軽減に努めた。

ふれあいプラザ二勢管理運営事業

年間目標
(1) 地域高齢者の生きがい活動の拠点として健康づくり教室と体操サロン等の開催 (2) 多様な世代や人が交流できる機会や場所づくりを行う　　随時 (3) 生きがい活動の拠点としてボランティアの受け入れを行う　　随時 (4) 二勢町老人会の定例会等の支援　　週１回 (5) 二勢防災ハザードマップ、交通安全マップの掲示と住民への周知　年１回 (6) 持ち寄りサロンの実施　　毎月５回（毎月第３週めの月～金） (7) 就労支援が必要な人への仕事体験の場等の提供　　随時
実　　績
(1) 地域高齢者の生きがい活動としての健康づくり教室（自主事業）等の開催 ①　健康づくり教室　　実施回数：　41 回／年　　利用人数：延べ　615 名 ②　体操サロン　　実施回数：　32 回／年　　利用人数：延べ　201 名 ③　卓球利用者　　実施回数：　254 回／年　　利用人数：延べ 1,316 名 高齢者が趣味や体操に取り組める施設として活用されている。 (2) 多様な世代や人が交流できる機械や場所づくり ①　シルバーハウジング交流会（団地交流会）を兼ねて４回実施した。 ②　政府の緊急事態宣言を受け施設利用の中止と自主事業中止期間中に二勢市営住宅前でラジオ体操を行った。 実施期間：5～7 月　　実施回数：23 回　　延べ参加人数：278 名 シルバーハウジング入居者、他二勢町の高齢者の見守りや声かけ、安否確認も合わせて行うことができた。地域高齢者の健康維持と、体操後に二勢町住民同士の交流を図る機会の提供ができた。 ③　バザーの開催　　とき　：　12 月２日　　来館者数　：　51 名 住民から新型コロナウィルス感染拡大で自宅押入れの掃除をして不用品がたくさんあるという情報を得、準備段階からボランティアの協力を得て開催した。 久しぶりに外出して近隣住民同士の交流が楽しかったという声があった。 バザー収益金 40,600 円は、令和２年７月発生した熊本豪雨災害の義援金とした。 (3) ボランティアの受け入れ 新型コロナウィルス感染防止対策として歌や踊りの披露、調理、飲食を中心とする行事を中止としたため、例年よりボランティアの受け入れは少なかった。 アクティビティ介護予防教室の傾聴ボランティア、バザー開催に関してボランティアを依頼した。

(4) 二勢老人クラブの定例会等の支援

① 定例会、総会等会議開催支援（会場準備、体操指導など）0 回

新型コロナウイルス感染拡大のため定例会、総会は開催されなかった。

② 「いきいき百歳体操」教室時の会場設定等支援　　38 回／年

(5) 二勢防災ハザードマップ、交通安全マップの掲示と住民への周知

① マップの掲示

輪島市土砂災害の避難場所、ローリングストック・非常用持ち出し品チェックリスト、交通安全マップを玄関に掲示した。

② 交流会開催時（シルバーハウジング交流会参照）や、来所する住民にマップを見ながら設周辺や町内の交通安全について伝えた。日頃から災害を意識し、備えの大切さについて考える機会づくりに努めた。

(6) 持ち寄りサロンの実施

実施回数 ： 16 回／年　　延べ参加人数 ： 8 名

新型コロナウイルス感染防止対策で７月まで中止。再開後は調理、持ち込みはせず飲食店の出前を頼み、昼食を共にし独居高齢者の孤食の解消につなげた。

(7) 就労支援が必要な人への仕事体験の場等の提供

利用実人数 ： １名　　利用回数 ： 3 回

くらしサポートセンターと連携し、就労に対する知識と必要なスキル向上の場として施設を提供した。

シルバーハウジング生活援助員派遣事業

年間目標
(1) シルバーハウジング入居者他、高齢化している地域住民との交流の場の提供　年４回 (2) 入居者への生活等相談の受付。必要時関係機関と連携して対応する (3) 生活援助員の研修を行う。（ＡＥＤ操作訓練）　年１回 (4) 訪問による安否確認や見守りを行う　毎日 (5) 電話による安否確認を行う　月１回
実　績

(1) シルバーハウジング入居者他、高齢化している地域住民との交流の場の提供

シルバーハウジング交流会（団地交流会）　実施回数：4 回／年

とき	内　容	講　師	参加（人）
7 月 27 日	新しい生活様式と 新型コロナウィルス感染防止対策	健康推進課　保健師	16
10 月 12 日	ＡＥＤ取扱い救急救命講習会 紙芝居とお話	輪島消防署署員 宮下真由美氏	12
12 月 2 日	測定機器を使った健康チェック	日本調剤薬局 管理栄養士	14
3 月 17 日	「もしばなゲーム」～これからの 自分の生活を考える～	地域包括支援センター 社会福祉士	11

(2) 入居者への生活等相談の受付。関係機関との連携について

- シルバーハウジング入居者状況　34／36 世帯　43 人　平均年齢　75.4 歳
  独居世帯 25 世帯（内高齢者独居 21 世帯　平均年齢 78 歳）
  （内障害者独居　3 世帯　平均年齢 60 歳）
  高齢者のみ世帯 8 世帯　その平均年齢 78 歳
- 訪問回数　90 回／年
- 電話安否確認回数　354 回／年
- シルバーハウジング入居者からの相談件数　41 件／年
- 日常生活の援助（買い物）　3 件／年
- 関係機関との連携　18 件（健康推進課 14 件、都市整備課 4 件）
- 誤報対応（ブザーの誤操作等）　43 件／年

二勢町区長、民生委員、福祉推進員と連携しながら安否確認をしている。

関係機関（都市整備課、健康推進課）との連携では早急に連絡や報告をし指示を受けながら対応している。また、訪問時に得た情報（体調不良、生活上の悩み等）については本人の了解を得て報告し連携しながら対応した。

(3) 生活援助員の研修を行う（ＡＥＤ操作訓練）

とき　：　令和 2 年 10 月 12 日　　対象　：　職員 3 名

団地入居者の安心に繋げるためシルバーハウジング交流会を兼ねて実施した。

筋力向上トレーニング事業

年間目標
(1) 運動機能低下のおそれがある高齢者に指導する。教室を１日２回（月、火、木、金の午前、午後）実施する (2) トレーニングの前後に血圧測定や健康観察、ストレッチ運動を行う (3) リハビリ専門職と連携しながら実施する (4) 市長が定める研修会に参加しスキルアップを図る
実　　績
(1) 筋力向上トレーニング教室（利用者１名につき週２回、３か月間実施） 実施回数：270 回／年　　利用人数：延べ 466 名（実利用者数 19 名） 市立輪島病院に事業説明パンフレットを届けてサービスが必要な高齢者を紹介してもらっている。この連携により退院後も引き続きリハビリできる体制ができた。 ・ 利用者増加の為の広報について 筋力向上トレーニング教室のパンフレットを作成し、地域包括支援センターや輪島病院リハビリ室に配布した。 二勢町内会の回覧板で筋力向上トレーニング、健康づくり教室を案内した。 (2) トレーニングの前後に血圧測定や健康観察、ストレッチ運動を行う 事前に既往歴、現病歴を確認し理学療法士と情報を共有している。 また、毎回、トレーニング前後に血圧測定、健康観察、ストレッチをしている。 体調不良時には家族に連絡して迎えに来てもらう等対応し事故なく実施できた。 (3) リハビリ専門職との連携について 市立輪島病院理学療法士の派遣指導を 19 回受け、腰痛、膝痛がある高齢者が安心してプログラムに取り組むことができるよう配慮した。 (4) 職員研修について ① 輪島市介護予防事業所職員スキルアップ研修は開催されなかった。 ② 医療介護関係者認知症対応オンライン研修「認知症の方への服薬支援」参加 とき：令和３年３月 13 日　場所：ふれあい健康センター　参加：職員１名 認知症という疾患を正しく理解し、目的・目標を多職種間で共有しながら協働するということ、医療・介護を含む総合的な視野を持って支援することを学んだ。 ※ 利用者にはサービス利用中から自宅でも取り組めるプログラムを指導した。 また卒業後はふれあいプラザ二勢の自主事業「健康づくり教室」「体操サロン」への参加を促し、外出して地域と交流を続ける等の指導を行った。

⑧社会福祉法人連携による「地域における公益的な取組」

年間目標
市内にある9つの社会福祉法人が定期的に会合の機会を持ち、連携して市民のニーズにどのような取組ができるか協議、情報収集していく。必要時に開催する
実　　績
(1) 手作りマスク、衛生用品等の配布（9法人中6法人に配布） 5月寄附された衛生用品を市内社会福祉法人に連絡し希望する法人に配布した。 (2) 石川県社協からの訪問調査対応　　とき：7月16日　　出席：職員2名 内容：市内の社会福祉法人連携状況について (3) 意見交換会　　とき：9月10日　　参加：10人 内容：各法人の地域への貢献事業実施状況、方針について (4) 意見交換会　　とき：12月2日　　参加：8人 内容：各法人が実施する地域への貢献事業でのワーモの有効的な活用について (5) しせつの窓口（ファミイ）相談対応　　2回／年　　8月13日、8月20日

⑨当事者団体等の支援

年間目標
(1) 本法人の地域福祉活動計画及び輪島市福祉計画や障害者計画の実現の為、身体障害者福祉協議会等、障害者団体や家族会等の当事者団体に対し様々な支援を行う (2) 障害者が地域で安心して住むことができるよう市内イベントへの協力をする (3) 障害者支援施設管理者や職員と日頃から連携をとり、業務や活動内容を理解し市内イベントや社協だより等を通じて市民に周知する
実　　績
(1) 輪島市身体障害者福祉協議会、戦没・水難遺族会の活動を年間通して支援した 補助金申請、役員会等支援。身体障害者福祉協議会の事業に関して会員への連絡等事務局として対応した。 (2) 障害者に関する市内イベントへの支援、協力 新型コロナウィルス感染拡大の為、障害者との交流パーティーは中止となった。 (3) 障害者施設との連携については,日頃から社協の共同募金事業、ボランティアセンターを通して顔なじみの関係をつくり、連携して対応できる体制づくりを心がけている。補助金申請等の情報提供や、社協だより等で各種団体の活動紹介をすることにより各団体や障害者施設の活動を把握し支援した。

⑩生活支援体制整備事業

年間目標
(1) 第1層生活支援コーディネーターの配置（社協職員2名） (2) 第1層生活支援コーディネート業務を行う ① 体制、基盤づくり　(9地区) ・ 住民による第2層協議体立ち上げと第2層生活支援コーディネーター支援 ・ 第2層区域ごとに住民コアメンバーと立ち上げ方法を協議するとともによりあい構想について住民対象の勉強会を開催する ・ 第2層区域ごとの課題を抽出し住民と共有するためのアンケートを行う ② 第1層協議体の立ち上げを行う ③ 市全域でのサービスの開発やサービスの提供をする団体の把握とそれらへ新サービス開発の働きかけを行う (3) 第2層生活支援コーディネーターの管理、相談、指導
実　績
(1) 第1層生活支援コーディネーターの配置について 社協職員2名を配置し各地区に第2層協議体を立ち上げるための支援を行った。 (2) 第1層生活支援コーディネート業務 ① 体制、基盤づくり（4地区（浦上、門前、七浦、鵠巣地区）で第2層区域ごとの打合せ会実施　年間12回 ・ 浦上地区第2層協議体立ち上げと第2層生活支援ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰの設置支援 2地区（くらしのネットうらかみ3名、NPO法人夢かぼちゃ9名） ・ 住民ｺｱﾒﾝﾊﾞｰに第2層協議体立ち上げについて説明。（七浦地区、鵠巣地区） 地区の課題である移動支援について先進地例や自動車保険情報を提供した。 ・ 鵠巣地区区長の希望で浦上地区ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰから情報収集する場を作った。 ・ 第2層区域ごとの課題を抽出し住民と共有するためのアンケート実施については鵠巣地区と町野地区で実施に向けて調整した。 ② 第1層協議体（輪島市全体のよりあい）の立ち上げ と　き　：　令和2年10月20日　　場　所　：　輪島市文化会館3階ホール 参加者　：　24名 内　容　：　生活支援体制整備事業について 第1層ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ、第2層ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰの取り組みについて くらしのネットうらかみ（浦上地区）の取り組み紹介 ③ 市全域でのサービス提供団体の把握、新サービス開発への働きかけについては各地区の実情を十分に把握してから行うこととした。

(3) 第2層生活支援コーディネーターの管理、相談、指導

・　浦上地区　くらしのネットうらかみ　年間の活動

会議開催	生活支援会議	ﾆｰｽﾞ把握	関係機関会議	移動支援	ｻﾛﾝ支援	老人ｸﾗﾌﾞ支援	買い物調整	草刈り	除雪
14	4	5	26	7	18	9	18	3	4

防災	朝市	広報発行	その他	合計
6	10	27	81	232

関係機関との会議、連携に関する業務が多い。また会議資料作成、草刈り等事業準備報告書作成に関する事務も多くなっている。

６月以降、地域の高齢者の活動やサロンへの支援が増えている。また買い物支援については移動販売車「とくし丸」と共に高齢者宅を訪問して調整する業務も行っている。

・門前地区　NPO法人夢かぼちゃ　年間の活動

業務内容	活動回数	ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ対応回数
相談業務	109回	195回

どのような相談を受けたのか、どのように対応したか報告書作成について今後指導をしていきたい。地域住民がどのような悩みごと、生活のしづらさがあるのか、コーディネーター自ら関心を持って対応していくことができるよう、今後研修も必要である。

※　研修について

令和2年度生活支援コーディネーター研修

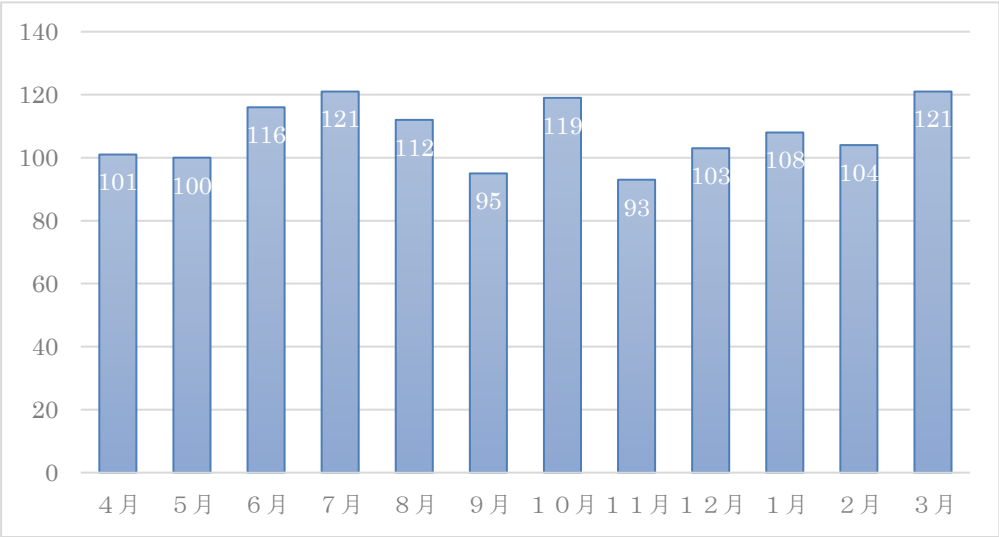
と　き　：　令和3年1月13日　　場所　：　輪島市社会福祉協議会オンライン研修

参加者　：　第1層コーディネーター1名

内　容　：　生活支援コーディネーターの今後の役割と協議体の運営について

３．介護福祉課

①有償運送事業

年間目標
市内在住で、公共交通機関の利用が困難な要介護者や障がい者を安全に有償で医療機関等へ送迎を行う。
実　　績
令和２年度　利用実人数９４人　利用延人数１，２９３人（月平均利用人数９４人）    輪島市内の医療機関だけではなく、市外の医療機関への送迎も増えてきている。

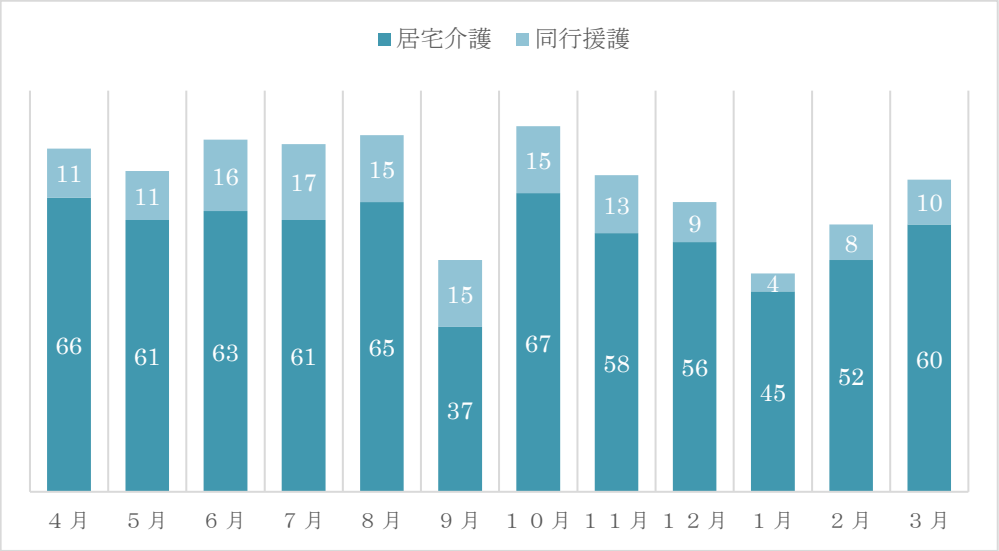
②電話訪問事業

年間目標
在宅の高齢者が安心して暮らせるよう、見守り体制の強化と孤立感の解消のための傾聴活動を電話訪問により実施する。 ・傾聴研修を受けたボランティアが利用者に月２回電話訪問を実施する ・広く周知し、利用者の増加を目指す ・年２回ボランテイアの交流会を開催する
実　　績
月２回傾聴ボランティアが申し込みのあった高齢者宅に電話をかけ、孤立や孤独の防止を図った。ボランティア連絡会の開催及び各教室等への周知は、新型コロナウイルス感染症の蔓延により開催できなかった。利用者数は新規申し込み者数（１名）より死亡や施設入所により辞めた方（８名）７名減の実績となった。 ボランティアについては前年度と変更はなし。 令和２年度　利用者数　４月当初４５名　３月末３８名　　訪問延件数１，０００件 ボランティア実人数　１６人　ボランティア延人数　２３７人 今後も電話訪問事業の周知を行い、高齢者が安心して暮らせるよう努めるとともにボランティアの増加に努めたい。

③障害福祉サービス事業

年間目標
・身体障害、知的障害、精神障害のある方が、住み慣れた地域で安心して生活できるよう支援する ・きめ細やかな気持ちのこもったサービスを心がけ、利用される方の満足が得られるよう努める ・同行援護のサービスを提供する事で安全に移動できるよう支援する ・代筆や代読のサービスを行い安心して生活できるよう支援する
実　　績

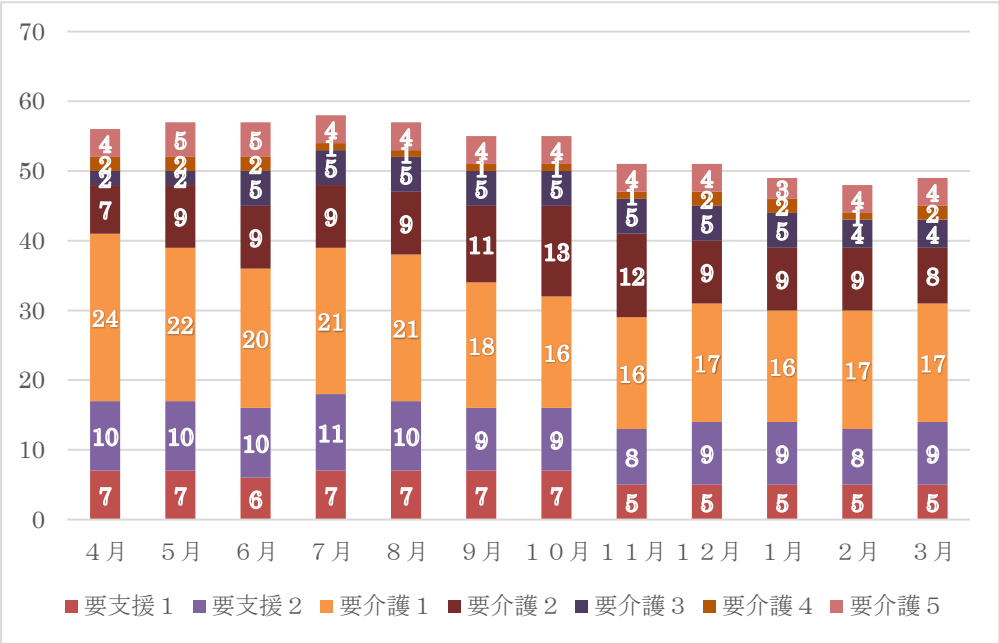
令和２年度　居宅介護利用延人数　６９１人
　　同行援護利用延人数　１４４人



旧輪島市で唯一の事業所であるため、今後も関係機関と連携しながら質の高いサービスを提供していく。

④訪問介護事業（ヘルパーステーションほほえみ）

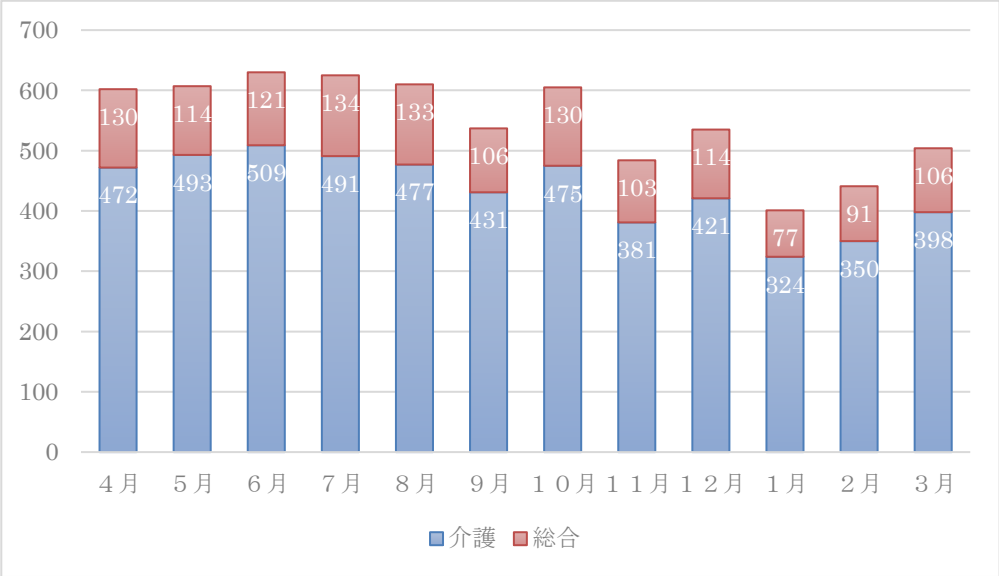
年間目標
・利用者や家族が安心して自立した生活ができるよう支援する ・介護サービスの評価、研修等を通じて、職員や介護サービスの資質向上を目指す ・他事業所と連携し、質の高いサービス提供を行う 職員体制　常勤ヘルパー２名、登録ヘルパー５名 加算　特定事業所加算Ⅱ　処遇改善加算Ⅲ
実　績
利用者が自宅で有する能力に応じた生活ができ、本人・家族が安心して自立した生活を送れるよう支援した。 令和２年度利用者数 要介護１，２，３，４，５　４５８人（月平均３８人） 介護予防・日常生活支援総合事業（要支援１，２）　１８５人（月平均１５人）



令和２年度訪問回数

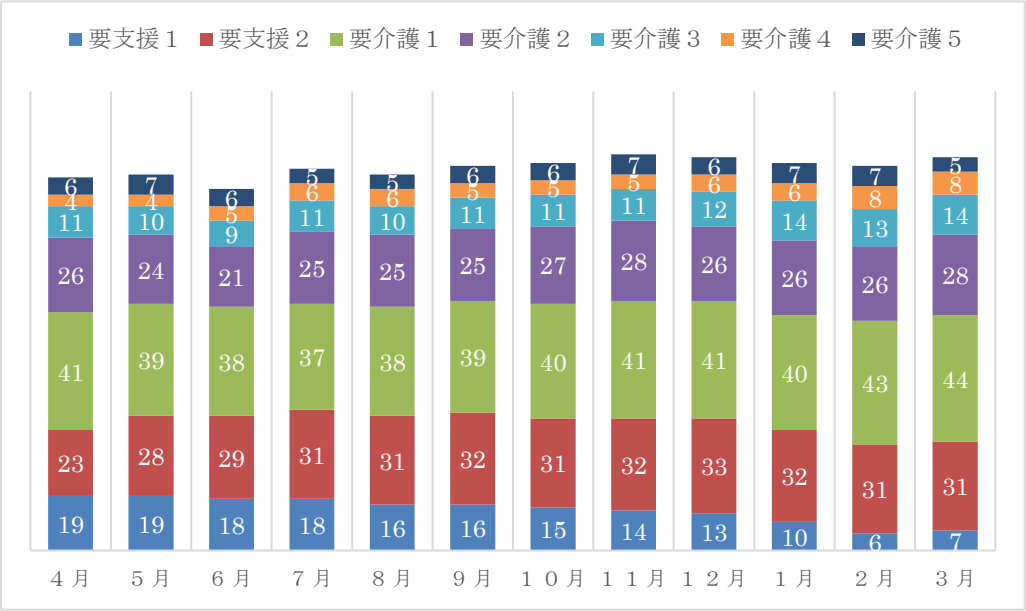
介護　　５，２２２回（月平均４３５回）

予防・日常生活総合支援　１，３６６回（月平均１１３回）



利用者の入院や入所、死亡により利用者数の変動はみられるが、事業所空白地域である町野地区の利用者を増やしていく。

⑤居宅介護支援事業（介護安心センター）

年間目標
利用者が住み慣れた地域で自立した生活ができるよう、利用者の立場に立ったマネージメントを行う。 ・利用者の尊厳と権利が守られ自立した生活がおくれるよう、医療機関及び介護サービス事業所と連携を図りながら公正中立なサービスを提供する ・研修や業務の評価、自己評価を通し、ケアマネージメントの質の向上を目指す ・職員体制　　主任介護支援専門員　４名（内１名他事業と兼務の為、0.5） 　　特定事業所加算Ⅲ
実　　績
利用者の立場に立ち、公平中立なサービスの提供を行った。また、医療機関及び介護サービス事業所と連携し、利用者が住み慣れた地域で安心して暮らせるような支援を行った。 令和２年度 居宅介護利用者数　　年間１，６０１人　月平均１３３人 年間訪問調査件数　　７８件 年間訪問件数　　１，８２３件 年間相談件数　　３９件    前年度より、月平均１０名弱の利用者増となっている。今後ますます質の高いサービス提供を行っていく。

４．児童福祉課

①　輪島市もんぜん児童館事業

年間目標
1　地域子育て支援事業 乳幼児とその保護者が交流する場の提供。子育て相談や情報提供、助言や援助を行う 2　児童館事業 18 歳未満の子どもを対象に遊びと生活の援助、子どもの心身の育成と情操を豊かにする 地域社会とつながり、協調性や自主性、福祉の心を育てる
実　績
1　（1）乳幼児親子の交流の場の提供と交流 ・　育児サロン 年間 116 回 157 組参加　（昨年度実施回数 127 回　210 組） 親子体操 6 回　22 人　ぱんだタイム 8 回　98 人 「リトミック」3 回 22 組（55 人）「手型足型陶芸教室」（9 組 21 人） ・　子育て家庭の声を取入れ実施。コロナ禍も子育て家庭が孤立しないよう支援した。 （2）子育て等の相談援助 ・　保健師、栄養士による乳幼児健康相談は年 5 回、41 人が訪れた。 （3）子育て情報の充実 ・　児童館だより、のとノットアローン、ホームページで情報発信。 ・　もんぜん児童館のポスター「ぜんりょくであそぶ」を作成した。 （4）子育て支援講習会 ・　輪島病院小児科医　小浦詩氏「コロナウイルス感染症について」で学んだ。 7 人が参加した。 （5）地域協働の取り組み ・　みらい子育てネットの協力で ほっとサロンもんぜんを開催。先輩ママの協力を得て、子育てを支援した。手形足形アートのマイバック作りに 10 組 29 人が参加した。 2　（1）遊びによる子どもの育成 ・　スポーツ教室　もんぜんスポーツクラブの指導で年 5 回 138 人が参加。 ・　理科教室　　年 3 回実施。夏の星空観察会に親子 44 人が参加。 ・　工作行事　　年 6 回 98 人が参加。 ・　クリスマスピアノコンサートでは子どもたちが音楽を楽しんだ。 （2）移動児童館 ・　新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。 （3）子どもの居場所づくり ・　輪島市と連携協定を結んでいる金沢学院大学と協働で行事開催。 第１回「将来の夢を語ろう」 市内の小中高校生、保護者 70 人が大学生とオンラインでつながった。中学生から自分の将来について考える機会になったと感想があった。

第２回「体験型ゲームであそぼう」

14 人が参加し大学生が作成したコンピューターゲームを体験。コロナ禍に子どもたちが体を使って遊び、たくさんの笑顔が溢れた。

この取り組みは「コロナ禍においても地域の社会資源やボランティアと協働し運動不足やストレス解消等、地域の子どもの福祉課題に対応していく素晴らしい活動」と、一般財団法人児童健全育成推進財団のフェイスブックで全国に紹介された。

（４）ジュニアボランティア活動

体験を通して福祉やボランティア活動への意識を育むことを目的に実施した。

・ 交通安全マスコット作り（7 人）

みらい子育てネットもこもこクラブと協力して交通安全マスコットを 100 個制作。

・ 敬老会プレゼント作り（6 人）

公民館と協力して敬老会で配るプレゼントを 40 個制作。

・ 總持寺 700 年を祝う竹灯籠作り（3 人）

イベントで灯す竹灯籠を総合支所で制作。

・ ゴミゼロ活動（44 人）

自分たちの暮らす地域をきれいにする活動。児童館、小学校、總持寺周辺の清掃を行い地域の方から喜ばれた。

・ 認知症サポーター育成講座（20 人）手話講座（37 人）

子どもからは「地域の人たちが元気になるサポーターになりたい」と感想があった。

（５）支援が必要な子どもへの対応

・ 学校、関係機関と連携し見守った。児童館のこども食堂で支援　11 回 187 人利用

年間来館者　（単位：人）

	乳幼児	小学生	中高生	一般	ボランティア	合計
令和元年度	1,128	9,164	143	1,683	60	12,079
令和２年度	779	8,622	262	1,175	48	10,886

・ 令和２年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、５月、６月の行事は中止。７月から順次再開した。

②放課後児童健全育成事業（児童クラブ）

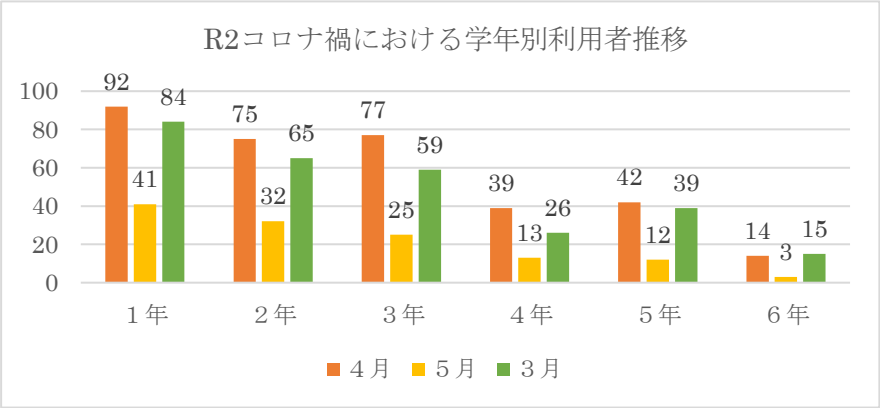
年間目標
・共働き家庭など留守家庭の小学校に就学している児童に対して、放課後等に適切な遊び及び生活の場を与えて、その健全な育成を図る
実　　績

令和２年度

- 輪島市放課後児童クラブ 12 カ所　支援員 33 人（放課後児童支援員 26 人、補助員 7 人）
- 開設日数　263 日　　開所時間　1,374 時間（前年度比 120 時間減）

- 市内児童クラブの利用状況　　（単位:人）

児童クラブ	R２．４月(特別支援)	R２．小学校児童数	利用率
鳳至	３６（２）	鳳至小　２０２	３０％
鳳至第 2	２４（１）		
河井	５２（２）	河井小　２７７	３８％
河井第 2	５３（１）		
大屋	２８（２）	大屋小　１０５	５４％
大屋第 2	２８		
鵠巣	１４（３）	鵠巣小　　２０	７０％
河原田	１７	河原田小　３５	４９％
三井	１７	三井小　　１８	９４％
もんぜん	３４（２）	東小６１西小３３	４６％・１３％
南志見	１１（２）		
まちの	２５	町野小　　４３	５８％
合　　計	３３９（１５）	７９４	４２％



※　４月から５月の臨時休校中も児童クラブは通常開所した。５月は輪島市からの利用自粛要請に 206 名の児童が休所。（利用自粛要請期間４月１日～6 日、４月 16 日～5 月 31 日）

利用自粛要請期間中は保護者の経済的負担の軽減を目的に、輪島市放課後児童クラブ利用料軽減事業補助金により利用料の軽減を行った。（日割り計算して返還）

６月から学校再開と共に休所していた児童が戻ってきたが、3 月までに 51 人が退所した。

（1） 環境整備と安全対策

・ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のための取り組み

マニュアルの作成、感染予防対策　消毒、換気、健康チェック、保護者・学校と連携、高速殺菌装置の設置

・ 防犯カメラの設置、全児童・職員を対象に「防犯・防災訓練」を実施　10 回/年

（2） 子どもの主体的な遊び、学びの推進

・ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、じどうクラブまつりは中止となった。

・ 秋田書店からの寄附金で書籍 150 冊を購入。放課後に読書を楽しめる環境づくりをした。

（3） 相談・支援を必要とする子どもへの対応

・ 相談窓口の体制整備。利用者からの相談、意見、要望、苦情に迅速、適切に対応、解決する為の体制を整え、サービスの質の確保と向上に努めた。

〈相談件数〉

相 談 者	子ども	保護者	学校	地域	合計
相談件数	42	112	68	8	230 件

・ 主な相談内容

子ども　友だち関係、学習、家族のこと、心、健康について

保護者　子育て、子どもの発達、友だち関係、学習、仕事、家族に関すること

・ 福祉的介入が必要とされるケースについては要保護児童対策地域協議会や関係機関と連携して早期対応に努めた。保護者と連携して育成支援を行うとともに家庭の子育てを支援した。ケース会議　5 回/年

（4） 情報提供

・ 保護者におたよりを定期的に発行し、で行事の予定や連絡事項、児童クラブでの子どもの様子を伝えた。コロナ感染症に関する連絡等をメール配信した。メール 7 回/年

（5） 資質向上の取り組み

・ 自己評価

職員一人一人が石川県放課後児童支援員自己評価表によるチェックを行い、取り組み目標を立て職務に励んだ。

・ 研修

オンラインの研修会に積極的に参加、自主研修会で学び、実践につなげた。

・ 保護者アンケートの実施

利用者の 83%が満足と回答した。感染予防への取組や夏休みの昼食提供等、保護者から安心して仕事ができるという声が多くあった。

今後も保護者、学校、関係機関と連携して、児童の安全安心な放課後支援に努める。

③子育て支援、食育、学習支援事業

年間目標
・子どもの居場所づくり ・地域のボランティアの協力で食を通じて地域とつながる ・食育、学習サポートで継続的な見守りと自立支援 ・市内子ども食堂との連携を図る

実　　績

子どもの居場所づくり「わ・もっそこどものレストラン」(食育・学習サポート)

○　実施期間:令和２年４月１日～令和３年３月３１日

開催数:３１回　(輪島地区９回、もんぜん地区９回、学習支援５回、弁当配布８回)

参加者数:延べ　こども食堂４１５人　お弁当支援５７６人　学習支援４３人

○　主な財源

・　赤い羽根「テーマ型募金」

・　中央共同募金会を通じた大和ネクスト銀行「こども食堂普及(石川)応援定期預金からの寄附金

・　赤い羽根「臨時休校中の子どもと家族を応援しよう緊急支援活動助成事業」助成金「子どもと家族の緊急支援全国キャンペーン」助成金

・　児童家庭支援センター協議会「子どもの食緊急プロジェクト」からの寄附金

○　これまでの活動状況

年度	食堂数	開催数	子ども	おとな	参加人数
H28 年度	１	１２	２７３	２７８	５５１
H29 年度	２	１５	３２２	２２７	５４９
H30 年度	４	２８	４８６	３４０	８２６
R １年度	５	３６	５７８	３８７	９６５
R ２年度	２	３１	８９０	１４４	１，０３４
合計	１４	１２２	２，５４９	１，３７６	３，９２５

子どもたちが食を通じて地域とつながること、自分でできるようになること(自立支援)を目的に活動。新型コロナ感染症対策に留意しながら、地域のボランティアの協力のもと、学習サポート(学習支援)と昼食の提供を行った。

寄附金や助成金を活用して学校休校期間やこども食堂休止期間中、市内飲食店の協力で「わ・もっそ元気弁当」の配布を５７６食行った。対象はこども食堂利用者、特別支援学校の児童や母子寡婦の会、ひとり親家庭児童等。コロナ禍においても孤立せずつながりが切れないように、ボランティアと協力して子どもと保護者を励まし見守った。

○　令和３年度活動資金のため令和２年度赤い羽根「テーマ型募金」活動に取り組む

取組期間:令和３年１月１日～３月３１日

募金総額:２７６，０１９円(一般募金、企業、団体、個人から)

５．くらしサポートセンターわじま

①生活困窮者自立相談支援事業

年間目標
生活困窮者自立支援法に基づく生活困窮者自立支援制度の実施 ・経済的な問題のみならず、精神的な問題、家庭の問題、健康上の問題など複合的な問題を抱えた生活困窮者が困窮状態から早期に脱却することを支援する。本人の状態に応じた包括的かつ継続的な相談支援や就労支援等を実施し、経済的、社会的並びに日常生活的自立を促進する ・自立を支援するために、生活困窮者一人ひとりの状況と支援に携わる人の思いを大切にしながら、信頼関係を構築し的確なニーズを把握し、自己決定、自己選択の可能性を広く持てるように努める
実　　績
くらしサポートセンターわじま 新規相談数　　１２２件（そこから契約に至った件数４４件） 延べ相談対応件数　　１，８１５件 令和３年３月３１日末の契約数　６１件（２年度中に８件終結） ・関係者会議　１２回開催 福祉課各担当（生活保護、障害等）との連絡、月次相談件数、新規相談件数の報告 ・支援調整会議　６回開催（９件） 契約ケースに変化があった時等、輪島市役所福祉課各担当や関係機関（ハローワーク等）への連絡の為に実施し、支援計画の見直し、評価、終結について意見交換助言をもらっている。 ・事業の啓発・普及（相談窓口としての周知を図る） 輪島市民生委員・児童委員協議会会長会議出席　　１２回出席 地域で対象者がいればすぐ相談対応するために出席した。会議後、民生委員から相談を受けることもあった。 ・グループ活動支援 月１回開催（軽作業） 外出の機会をつくり、コミュニケーションや共同作業を行うことで、社会性の向上を目指した活動を行う。 ・広報誌（くらサポ通信）の発信　月１回 契約者やその他支援が必要と思われる方に対し、情報発信や啓蒙活動を行う。 ・関係機関との連携 輪島市役所福祉課、健康推進課、税務課、市民課、水道局、ハローワーク、ピアサポート北能登、北陸電力、医療機関等から情報提供や助言を受け、相談者の生活状況・健康状態等に応じて支援をしている。

②生活福祉資金貸付事業

年間目標
石川県社会福祉協議会の貸付制度で、生活困窮者、障害者又は高齢者に対し、資金の貸付と必要な援助指導を行うことにより、その経済的自立及び生活意欲の助長促進並びに在宅福祉及び社会参加の促進を図り、安定した生活を送れるようにする。 ・貸付の相談から申請、決定後の返済計画までを相手の立場に立って随時実施
実　　績
令和２年度　新規取次件数　１４９件 貸付決定件数　１４８件（７１名） ・生活福祉資金教育支援費　２件（ ２名・ 80.1 万円） ・コロナ特例緊急小口資金　７３件（69 名・1,260 万円） ・コロナ特例生活福祉資金　３９件（39 名・2,009 万円） ・　〃　延長　２０件（20 名・ 909 万円） ・　〃　再貸付　１４件（14 名・ 651 万円）

③北山たすけあい資金貸付事業

年間目標
生活福祉資金の貸付制度の該当にならない方で、緊急に生活資金が必要とされる方に対し必要な援助指導を行う事により、安定した生活を送れるようにする。 ・貸付の相談から申請、決定後の返済計画までを相手の立場に立って随時実施 ・長期滞納者のうち、死亡・所在不明など返済が見込めない方の不能欠損処理を行う
実　　績
令和２年度　新規貸付件数　14 件 〃　完済件数　17 件 〃　貸付金額合計　531,000 円 〃　償還金額合計　517,000 円 令和２年度末償還残額合計　1,842,000 円

④生活困窮者福祉資金貸付事業

年間目標
困窮者への新たな貸付制度として、金融機関や他制度で借入が困難な者で、生活・就労に車が必要な方への「車購入支援資金」、進学・就職時に必要な資金を貸付できる「青春チャレンジ支援資金」を創設。貸付から返済計画・相談援助指導を行う。 ・資金の周知を図る ・資金の貸付から返済計画、その後の生活状況の見守り確認など、継続的に支援を行う ・生活困窮者自立支援事業の利用契約を締結し、必要に応じ家計支援・就労支援を行う
実　　績
輪島市民生委員・児童委員協議会会長会議にて説明を行い、各民生委員・児童委員への周知をお願いする。また、青春チャレンジ支援資金のパンフレットを作成、輪島高校、門前高校の進路指導担当教諭と面談し支援資金の紹介を行った。 社協だより１０月号・２月号に掲載し、市民への周知を図る。 令和２年度　新規貸付件数　　5 件（5 名） ・車購入支援資金　　件数　2 件（2 名） 貸付金額合計　630,000 円 償還金額合計　330,000 円 ・青春チャレンジ支援資金　件数　3 件（3 名） 貸付金額合計　1,521,500 円 償還金額合計　144,800 円

⑤職業紹介事業

年間目標
就職を希望するが、障害特性・精神疾患等にて就職が困難な方、就労継続が困難な方に対して、理解ある企業と求職者を繋ぐ。 ・無料職業紹介所を開設し、３社以上の企業求人を受付、就職に困っている求職者との仲介を行う ・就労準備支援事業と協働し、就労体験・就労訓練を受け入れてくれた事業所への雇用契約につながる支援を行う
実　　績
・職場見学、体験の受入れ許諾事業所 一般企業　４社　　福祉･介護施設　８事業所 体験の承諾介護施設にて、8 月臨時職員扱いで就労開始、12 月に正採用。

⑥就労準備支援事業

年間目標
就労に必要な実践的な知識・技能等が欠けているだけではなく、生活リズムが崩れている社会との関わりに不安を抱えている、就労意欲が低下しているなどの理由により直ちに就労することが困難な方は、既存の雇用施策の枠組みでの支援にはなじまないため、就労に従事する準備としての基礎能力の形成を計画的かつ一貫して支援する。 ・対象者の困難度（困り具合）に応じたプログラムを作成し、生活リズムを整えるための基本的な生活指導と実践や、社会でのコミュニケーションを想定した応答訓練、就労に耐えうる身体づくり等を最長１年の期間を設け実施する ・ひきこもり者の社会参加のための機会をつくり社会的孤立を解消する取り組みを実施する ・訓練の達成段階に応じて、就労体験・就労訓練に協力してくれる事業所に依頼する
実　　績
令和２年度　新規契約件数　1 件 〃　延べ対応件数　97 件 〃　継続契約件数　2 件 〃　延べ対応件数　3 件 〃　未契約対応件数　73 件（相談者実数 2 名）

⑦家計改善支援事業

年間目標
家計収支の均衡が取れていないなど、家計に問題を抱える生活困窮者からの相談に応じ、相談者とともに家計の状況を明らかにして、生活の再生に向けた意欲を引き出したうえで、家計の視点から必要な情報提供や専門的な助言・指導等を行う。相談者自身の家計を管理する力を高め、早期に生活が再生されることを支援する。 ・相談者ごとの生活イベントを組み入れたキャッシュフロー表を作成し、中長期を見据えた家計管理の見える化を行う ・滞納や債務の解消のため、必要な機関と協力し支援を行う
実　　績
令和２年度　新規契約件数　3 件 〃　延べ対応件数　34 件 〃　継続契約件数　10 件 〃　延べ対応件数　296 件 〃　未契約対応件数 540 件(相談者実数 25 名)

⑧心配ごと相談事業

年間目標
・弁護士による法律相談　（年１６回） ・心配ごと相談　（門前地区年１２回）
実　　績
・相談体制の充実 心配ごと相談（門前地区）　月１回　門前地区民生委員が門前公民館にて実施 弁護士相談　年１８回実施 ・年度別相談件数

単位：件

	弁護士	ｶｳﾝｾﾗｰ	門前地区民生委員
H30 年度	41	69	2
R 1 年度	50	50	7
R 2 年度	38	－	3

６．災害ボランティアセンター運営事業

①災害ボランティアセンター運営連絡会

年間目標
１．災害ボランティア運営連絡会を開催する（年３回程度予定） ２．市民に向けての広報活動を行う ３．災害ボランティアセンターの運営に関し、職員研修を行う ４．災害時職員参集マニュアル検証・確認をする
実　　績
１．災害ボランティアセンター運営連絡会　運営連絡委員１２名　準備室員６名（社協） 災害時に災害ボランティアセンターの運営が円滑に行われるよう、日頃から連絡会で組織間の連携を図る ・令和２年８月２日（日） 「輪島市総合防災訓練における災害ボランティアセンター運営訓練 コロナ感染症蔓延防止のため、輪島市総合防災訓練中止。公民館単位の訓練となる。 ・令和２年１０月３１日（土） 「コロナ渦における防災ボランティアセンターの設置・運営訓練」・輪島市文化会館 輪島市にて感染者が出たため中止。(10 月２９日に連絡を行う） ・令和３年３月２７日（土） 「コロナ渦における災害ボランティアセンターの設置・運営訓練」 参加者：輪島青年会議所２名・輪島市役所市民課２名・輪島市社協５名 学生ボランティア（高校生）１名 実施報告書を運営連絡委員に送付。次回運営連絡会にて評価、意見をいただく予定。 ２．職員等が研修会等に参加 ・　令和３年３月２９日(月)「石川県災害ボランティア担当者会議」・ＺＯＯＭ 以下の研修会は新型コロナ感染症の影響で中止又は、参加中止。 ・「災害時の連携を考える全国フォーラム」・ 東京都 ・「石川県災害ボランティアセンター運営研修会」・金沢市 ３．各関係機関との連携 ・　輪島青年会議所と輪島市総合防災訓練時の災害ボランティアセンター設置・運営訓練について打ち合わせを行い、役割分担、参加団体（輪島災害支援ネットワーク）の調整を行う。 中止となったため、後の「コロナ渦における災害ボランティアセンターの設置・運営訓練」に青年会議所担当者含め２名が参加する。

その他の各種福祉推進事業

1. 出前福祉教室（１１回）

職員を講師として派遣し、講座や実習等を実施することにより、市民が福祉について理解を深める機会としました。

実施日	場所	内容
４月１５日	下山集会所	安心のしくみ
５月２０日	山本集会所	介護保険サービスについて
８月３日	ふれあいプラザ二勢	安心のしくみ
８月４日	ふれあいプラザ二勢	安心のしくみ
８月５日	ふれあいプラザ二勢	安心のしくみ
８月６日	ふれあいプラザ二勢	安心のしくみ
８月７日	ふれあいプラザ二勢	安心のしくみ
１０月７日	大屋小学校	小学生福祉講座（点字教室）
１１月２５日	輪島中学校	防災への備えと避難所運営について
１２月１０日	鵠巣小学校	小学生福祉講座（車いすの操作について）
１月１３日	輪島市ふれあい健康センター	安心のしくみ

2.　職員の出張及び研修状況（３８件）

期日	出張内容	出張者
4月14日	高松病院アルコール外来医とのミーティング	くらしサポートセンターわじま
6月22日	奥能登地域生活保護受給者自立促進事業協議会	くらしサポートセンターわじま
7月15日	わじまケアネット居宅介護支援部会研修	介護福祉課
7月22日	石川県ZOOMを使ったオンライン研修LINEの活用等	児童福祉課
8月19日	石川県児童虐待防止ネットワーク強化実践研修会(ZOOM)	児童福祉課
9月3日～10月30日	石川県放課後児童支援員認定資格研修（8日間）	児童福祉課
9月9日	石川県放課後児童支援員中堅者研修	児童福祉課
9月18日	能登北部自殺対策連絡協議会	くらしサポートセンターわじま
9月25日	公正採用推進研修会	総務課
10月9日	石川県放課後児童支援員共通研修	児童福祉課
10月22日	同一労働同一賃金等説明会	総務課
10月26日	石川県地域子育て支援体制強化事業「対人援助技術研修」	児童福祉課
10月30日	輪島市事例検討研修会（河井児童クラブ）	児童福祉課
10月30日～11月5日	発達障害支援調整会議（就労準備契約者）	くらしサポートセンターわじま
11月5日～12月18日	自主研修「ペアレントトレーニング研修」全4回	児童福祉課
11月10日	石川県放課後児童支援員中堅者研修	児童福祉課
11月11日	石川県学童保育連絡協議会・指導員会共催講演会(ZOOM)	
11月11日	輪島市介護保険認定調査員研修	介護福祉課
11月12日	令和2年度第1回市町社会福祉協議会事務局長会議（ZOOM）	事務局長
11月20日	石川県放課後児童支援員共通研修	児童福祉課
11月26日	石川県放課後児童支援員初任者研修	児童福祉課
12月3日	輪島市辞令検討研修会（もんぜん児童クラブ）	児童福祉課
12月16日	輪島市辞令検討研修会（大屋児童クラブ）	児童福祉課
12月18日	地域ケア会議	くらしサポートセンターわじま
12月22日	石川県「地域共生社会の実現に向けて」担当者会議	くらしサポートセンターわじま
12月22日	輪島市要保護児童対策協議会	児童福祉課
1月13日	令和2年度生活支援コーディネーター養成研修会	介護福祉課
1月21日	自主研修会「新型コロナウィルス感染症について」	児童福祉課
1月30日	輪島市研修会「発達障害・特性理解とアセスメント」	児童福祉課
1月～2月末	生活困窮者自立相談支援事業相談支援員全国研修（ZOOM）	くらしサポートセンターわじま

期日	出張内容	出張者
1月～2月末	生活困窮者自立相談事業就労相談支援員・就労準備支援員全国研修（ZOOM）	くらしサポートセンターわじま
1月～2月末	生活困窮者自立相談支援事業テーマ別研修 「ひきこもり支援」	くらしサポートセンターわじま
2月12日	自主研修会「支援に活かそうアンガーマネージメント研修」	児童福祉課
2月16日	自主研修会「支援に活かそうアンガーマネージメント研修」	児童福祉課
3月2日	石川県放課後子ども総合プラン研修会「放課後支援実践」	児童福祉課
3月4日	石川県ホームヘルパー協議会リスクマネジメント研修	介護福祉課
3月15日	令和2年度第2回市町社会福祉協議会事務局長会議	事務局次長
3月16日	令和2年度医療・介護関係者認知症対応研修	介護福祉課